



Title	因果的結束関係を表す副詞句と語彙概念拡張
Author(s)	岡田, 禎之
Citation	大阪大学大学院文学研究科紀要. 2020, 60, p. 1-40
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/76050">https://doi.org/10.18910/76050</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

# 因果的結束関係を表す副詞句と語彙概念拡張

岡田 禎之

## 0. はじめに

因果関係を表す副詞句には because of, as a result of, on account of, owing to, in spite of など、様々な表現がある。近年、ブログや Twitter などの口語的レジスターで、because of NP の代わりに、because N/NP の表現が用いられ、さらに N 以外の範疇要素（形容詞、副詞、動詞など）も because に直結する形で用いられるようになってきていることが報告されている。ここでは、その他の因果関係の副詞句表現にも同様の現象が生じていないかを調査し、何故 because of にこのような現象が起こったのかを考えてみたい。その際、because of と似た状況が、in case of という因果関係表現にも認められるようになってきていることにも注目して考察していきたい。以下、1 節で因果関係という結束関係の特質を考え、because X が生じてきたプロセスについての仮説を検討していく。2 節で in case of に同様の現象が認められることを確認し、because of との共通性を探る。3 節でそれ以外の副詞句表現を 5 つ（in spite of, by virtue of, owing to, on account of, as a result of）取り上げ、because of や in case of と何が違うのかを考えてみる。最後に 4 節を全体のまとめとする。

## 1. 因果関係と Because X

### 1.1 因果関係という結束関係

Because は従属接続詞として文をとるか、because of の形で名詞句をとるかのどちらかの形式が標準的な使用法である。しかし、近年その両者の中間的用法とも思える because N 型の表現が登場してきていることが、Schnoebelen (2014), Kanetani (2015, 2016, 2019), Bohmann (2016), Bergs (2018), 金谷 (2017) などによって報告されている。

- (1) I cannot go out today **because homework**. (Kanetani 2015: 63)
- (2) A: I definitely kind of viewed him as a suspect.  
B: Why?

A: Well, because motive. (Carey 2013)

(1) や (2) では、当該の名詞に冠詞や所有格表現、指示形容詞などの決定詞が付随していない。つまり名詞句を構成しておらず、名詞要素だけがそのまま現れているため NP ではなく、N が because の補部に登場していると考えられる事例である。

この種の表現は、because のあとに登場するものが必ずしも名詞には限られておらず、Schnoebelen (2014) の調査によれば、以下のような分布が認められる。

Part of Speech	Word counts $\geq 50$
Noun (people, spoilers)	32.02%
Compressed clause (ilysm)	21.78%
Adjective (ugly, tired)	16.04%
Interjection (sweg, omg)	14.71%
Agreement (yeah, no)	12.97%
Pronoun (you, me)	2.45%

Table 1 because X の分布 (Schnoebelen 2014)

ブログや twitter などのレジスターでは、because は節を省略したもの (ilysm (I love you so much), yolo (you only live once), ily (I love you), idgaf (I don't give a fuck), idk (I don't know), idc (I don't care)) 以外に形容詞も取っている。またこの表には現れていないが、動詞類や副詞類 (yeah, yes, no などの極性を表す表現以外の副詞類) も登場している。because stop, because want, because sleep, because seriously, because obviously などの存在が Schnoebelen (2014) によって報告されている (動詞類に関しては、名詞と捉える分析も可能かもしれないし、そのような可能性もあることが Schnoebelen 自身によって指摘されているが)。

この現象を考えるにあたってヒントになるのは、Kehler (2002) が唱えた、テキストの結束性に関する規定である。彼はテキストの結束関係として因果関係、類似関係 (並行的または対比的な文が典型例)、近接関係の 3 つのタイプを考えているが、ここで問題になるのは因果関係文脈の規定である。以下、(3) に提示しておく。

(3) Kehler's restrictions on Cause-effect coherence

a. Result:  $P \rightarrow Q$  (e.g., *and as a result, therefore*)

George is a politician, and therefore he's dishonest.

b. Explanation:  $Q \rightarrow P$  (e.g., *because*)

George is dishonest because he's a politician.

c. Violated Expectation:  $P \rightarrow \sim Q$  (e.g., *but*)

George is a politician, but he's honest.

d. Denial of Preventer:  $Q \rightarrow \sim P$  (e.g., *even though, despite*)

George is honest, even though he's a politician.

(Kehler2002: 20-21)

この規定で明らかなように、因果関係は命題間の結束関係であると考えられている。*because* や *though* などの接続詞は、文同士をつなぐことができるので、2つの命題間の結束関係を表している典型的な因果関係の接続詞であると言える。一方で、文ではなく名詞句を補部にとる因果関係的な副詞句もある。この場合は、形の上では名詞句であっても、意味的には命題に相当するような意味を表す必要がある。例えば、動名詞節、名詞+関係節、名詞+分詞節、名詞+不定詞節などを用いるのが一つの方法である。

このことを確認する上で、副詞的な前置詞句の中でも因果関係読み以外にもあいまいな表現を見てみると、補部の形状には特徴的な違いが認められる。例えば、*in the face of* は、場所関係を表す（「～の前で」「～に直面して」）だけでなく、理由の意味（「～があるので」）や譲歩の意味（「～にもかかわらず」「～に直面しながらも」）があり、後の2つは因果関係的な解釈を持つ。

場所の解釈の場合、*in the face of* は補部の構造が比較的単純であり、補足的な限定表現などを伴わない場合が多い。

(4) *in the face of* (LOCATION)

a. It was like throwing heresy **in the face of** a sacred cow. (BNC AN9)

b. For one of the curiosities of Aubeterre is a church in the form of an artificial cave hewn **in the face of** the chalk cliff. (BNC A1B)

これに対して、理由や譲歩の解釈になると、*in the face of* は、補部名詞句に関係節、分詞節、不定詞節などがさらに後続することがあり、これらの補部は意味的には命題内容にはほぼ相当すると考えられる。

(5) *in the face of* (REASON)

a. The only alternative, **in the face of** their own inability to act, is to get the

government to fight for them — through demanding laws to back up current procedures. (BNC A6V) [NP + 不定詞]

- b. Edward Heath's attempts to commit the party to something more dynamic ... collapsed **in the face of** a corporate culture which had become used to having things its own way under a succession of both Conservative and Labour governments. (BNC ADV) [NP + 関係節]

(6) in the face of (CONCESSION)

- a. Skybolt just won the debate **in the face of** a growing body of opinion that favoured fitting Polaris into British-built nuclear submarines. (BNC ABA) [NP + 関係節]
- b. Elizabeth was preserving her reputation, and the possibility of one day ruling her country, **in the face of** irresponsible sexual scandal about her created by one step-uncle, Thomas Seymour ... (BNC AE4) [NP + 分詞節]

このような補部の形状の違いは、Kehler が言うように因果関係的なつながりを表すか否か、ということとかがわっているものと思われる。

ただし、常に因果関係的なつながりであれば、表現形式上命題内容に相当するような形が整えられているとは限らない。実際には、ただ名詞句が補部要素として登場するだけの場合もある。その場合には、その名詞句を参照点として、それにまつわる命題内容を文脈に即して想起することが必要になってくる。この点について、次に考えてみたい。

ここでまた別の因果関係的な前置詞句 *by dint of* を見てみる。この付加詞は、BNC 内に 67 回生起しているが以下の表にあるように、その補部の主要部を構成する名詞は主に 4 つのタイプに分類できる。(補部名詞が複数登場する場合は、便宜上、最初の名詞補部によって分類しておく。)

BY DINT OF	Instances	Ratio
Action nominals (23 tokens)	labour, preparation, enquiries, sales, hard thought, effort [3 times], presentation, kick, use, imagination, kisses and caresses, extract, manipulation, allegations, ...	34.3%
Gerunds (19 tokens)	becoming, posting, bullying, contact-tracing, playing, winning, putting, having [twice], maintaining, ...	28.4%
Event nominals (13 tokens)	pressure, self-discipline, success, afternoon round (golf), experience [twice], passage (of time), birdies and a fortunate eagle (golf), presence, enterprise, ...	19.4%

Others (12 tokens)	Attributes (9 tokens): extra degrees of vim, one overwhelming individual personality, leadership, great energy, merit, their wits, ...	13.4%
	Measures (3 tokens): radical policy, opportunity, take-over tactics and property dealing	4.5%

Table 2 by dint of の補部の分布（Okada 2013: 173）

先ほどの in the face of の例文からは、因果関係を表す場合に命題内容を表す形式がほぼ整えられている事例を確認したが、常にこのように文に相当する内容がほぼ完全に整えられているわけではない。そのような事例が確かにある一方で、名詞句だけが現れていることもある。このときは、先述の通り、その名詞句を参照点とした命題内容を文脈から復元する必要があることになる。

Table 1 からは、by dint of においても多くの補部名詞表現が行為や出来事を表すものであることが判明し、それらの主要部名詞が命題内容を想起させる要素として働いていると考えられる。動名詞などは、より命題内容を想起させやすい表現であるといえるかもしれない。その他のカテゴリー（Others）は2つの下位グループに分けることができる。1つは当該文脈における人物や事物の属性を表すものであり、「その属性を持っていること」が、主節が表す結果状態の原因と解釈されるものであり、(7a) がその具体事例である。もう一つは、望ましい結果を得るために必要とされる手段を表すもので、「その手段を講じること」という命題内容に相当する解釈が可能となる場合であり、(7b) がその用例である。

- (7) a. He has had a very distinguished career and **by dint of** old-fashioned virtues and a marvelously warm personality (=his having old-fashioned virtues and a marvelously warm personality) has held the Party together on many occasions.

(BNC HRJ)

- b. It was run by a couple of brothers who had started with one large pub in North London and had built the company, **by dint of** aggressive take-over tactics and shrewd property dealing ... (=their adopting aggressive take-over tactics and shrewd property dealing, ...) (BNC CS4)

この「その他」のグループの表現は、述部を構成する要素が存在しないために、命題内容を想起するためには、かなり概念拡張が必要となるし、適正に解釈するためには文脈情報が重

要になってくる。

同様に、もう一つの事例として because of の補部にどのような要素が来るのか、その分布を確認してみる。BNC (British National Corpus) には 17,559 回生起している (because of と because\_of の両方の検索結果の合計) が、このうちの 500 事例をランダムに取り出し分類したものが、以下の表である。(ここでも補部名詞が複数登場する場合は、便宜上、最初の名詞補部によって分類しておく。)

BECAUSE OF	Examples	ratio
Event nominals (147 tokens)	lack, necessity, isolation, dearth, sin, injustice, consequences, fall-off, prevalence, emergency, risks, experience, pressures, failure, problem, secrecy, shortage ...	29.4%
Action nominals (103 tokens)	disputes, answer, change(s), enrolments, conformity or regulations, complaints, response, objection, management, movement, laughter, competition, use, emphasis ...	20.6%
Gerunds (10 tokens)	sharing, lashing, wanting, de-stocking, being, having, thinking ....	2.0%
Clauses (6 tokens)	who you are, what we use it for, what he ate for breakfast, what he had done ...	1.2%
Others (234 tokens)	Attributes/Measures (186 tokens): feelings, fear, gravity, dependence, method, sensitivity, unwillingness, anxieties, value, age, skills, grace, title ...	37.2%
	Entities (25 tokens): television, burdens, seas, ice, school, pearls, the glass ...	5.0%
	Pronouns/names (23 tokens): this, them, it, that, me, her, the Maori kings, Frankie ...	4.6%

Table 3 because of の補部の分布 (Okada 2013: 174-175)

出来事名詞、行為名詞、動名詞など、ある状況（命題内容）を想起させる主要部名詞が登場する比率が半分ほどを占め、より直接的に命題を表す節内容なども補部として登場している。これ以外のタイプも約半数に及ぶが、これらの大部分は by dint of の場合と同じく談話内に登場する人物や事物の属性を表したり、手段を表す主要部名詞である。「その特性が存在することによって」、「その手段を講じることによって」といった命題内容を想起することが可能となる表現が用いられていることになる。更に別種の主要部名詞も登場している。1 つには物理的な事物（entities）を表す名詞類であり、その事物の存在、到来や機能などが結果

をもたらす原因と解釈されるタイプである。

- (8) a. The Cotmanhay Open on the Erewash Canal had to be called off **because of** ice.  
(=bad conditions caused by ice on the water) (BNC A6R)
- b. The schools were expensive, and necessarily exclusive, in part **because of** the considerable burdens (=the existence of considerable burdens) of providing boarding education. (BNC ARC)
- c. I'm, I'm sorry if it was too difficult to, to follow, either **because of** the microphones (=malfunction of the microphones) or ... (BNC JNJ)

しかし、because of の場合にはもう一つのグループとして、代名詞や指示詞、固有名詞などが補部に登場しているものもある。this/that/it などの指示代名詞は、先行する文内容を指すことができるので、命題内容を表していると考えられることも可能である。一方で、固有名詞や人称代名詞などは、本来ものを指しているだけのはずであるが、because of の補部に用いられて因果関係を表す文脈に用いられている場合には、指示されている人物や事物と関わる状況や事態（命題内容）が原因として想起されることが考えられる。コーパスの用例から一つだけあげておくと、以下のようなものがある。

- (9) Frankie tried his best not to like them because he knew they were only pretending to be nice. He would be poisoned if he accepted food or sweets from them. Even their kisses might give him a disease from which he would die or become horribly spotty. Sweetheart knew about these things. She constantly needed to caution him about the many dangers he was either too young or too stupid to recognize for himself. .... **Because of** Frankie she had graciously rejected the opportunity of a lifetime. (BNC ACW)

Sweetheart が Frankie のことを守る必要があったがために、彼女は人生を犠牲にすることになった、という文脈であるので because of Frankie being in need of protection に相当する意味内容が想起されるが、言語表現としては Frankie という一語で表されている。このような概念拡張は、かなり文脈の支持が必要となるために、用例数としては少なくなるが、不可能なものではない。



## 1.2 because X という形式

Because of は、後の 3.1 節の Table 4 でも見るように因果関係を表すもっとも代表的で使用頻度の高い副詞句である。様々な文脈状況で利用可能であるということは、補部を取る表現形式のバリエーションにも幅が出てくることが期待され、現に、Table 2 と Table 3 の比較においても、because of の方が補部を取っている表現形式のバリエーションは豊かである。節を取ったり、人称代名詞や固有名詞を取るなどしている。(BNC, COCA を見る限り、because of 以外にも in spite of, on account of, owing to などでは this, that, it などの指示語以外に you, me, her などの人称代名詞だけが補部に来る例が確認できる。一方で、by dint of, in consequence of, as an outcome of, in effect of などの使用頻度の低い因果関係表現では、人称代名詞のみが補部に来るものは確認できなかった。)

さて、ここで because X という新しい形式について考えてみたい。この形式が生み出されるには because が文内容を補部にとることと、because of が名詞句をとりつつ、その名詞句の内容は意味的に命題に相当するものであること、という 2 つの入力が存在していることが重要に働いていると考えられる。この 2 つの入力形式の部分を組み合わせることで新しく出現したものが because X であると考えることができるのではないだろうか。

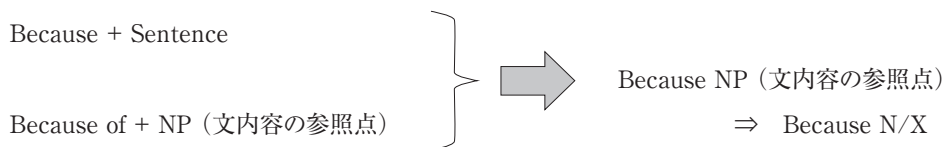


Figure 1 Because X の形成過程

2 つの入力形式の融合の方法としては、because + NP か、because of + S のどちらかの新形式になるはずであるが、because of + S にほぼ相当する形式は既に存在しており、多用されている (because of NP + 関係節、分詞節、不定詞節など (10))。

- (10) a. It is not an acceptable long-term rate, **because of the damage it does to industry and homeowners.** (BNC A3T) [NP + 関係節]  
 b. Anglian Water Authority refused to attend the meeting of residents in Oakham **because of rules preventing them discussing matters** that might depress the share price during privatization, ... (BNC A92) [NP + 分詞節]

また、ブログなどで短い表現を用いる必要がある環境で、その環境のニーズに合った形式として重用され、近年急速にその存在が知られるようになったのが because + X というスタ

イルなのではないかと考えられる。<sup>1)</sup>(より詳しくは、because NP から because N へ、さらに because X へと変化したのではないかと考えられるが、この点についてはさらに検討が必要となる。) 必ずしも because N の形式しか存在しないわけではなく、(11) にあるような because NP も共存しており、多層化している。because の後に続く名詞に決定詞が付随するもの (NP) も、付随しないもの (N/N') もあるが、このような漸次的な変化は言語変化には珍しいものではない (Hopper & Traugott 2003)。

- (11) a. I've suggested to couples that they agree not to break up a relationship **because a fight**. It's very important to have a safe space for fighting. (GloWbE Canada)
- b. The Queens father was not supposed to be king until Edward his senior brother abdicated the throne, all **because a woman**. (GloWbE Great Britain)
- c. They are scared of losing control, of change beyond their control, as well as are closing their minds to what they might gain. So they respond by placing up an illogical cause for their rejection of the relationship **because an obstacle**.  
(GloWbE Great Britain)
- d. That continued in Italy up through the 1950s. those who go to concerts voluntarily agree to the set of rules of etiquette but i think many many choose not to participate in live classical concerts **because the rules**.  
(GloWbE United States)

because が NP を取っている段階では、単に of が消失しただけとも考えられるが、重要なのは、この NP は命題内容を表す参照点として機能しているということである。命題内容を表す参照点として機能できるものであれば、名詞句というタイプのものでなければならないわけではない。直前の前置詞がなくなったことにより、補部カテゴリーのタイプを規制していた要素が取り除かれ、命題内容に対する参照点として機能する要素であれば NP 以外の他のカテゴリーの要素であっても認可されるようになっていったと考えられる。

まず NP ではなく N が補部として生じてきた段階で、ただの of 脱落とはもはや考えることはできなくなる。この段階では、N は補部の形態に関する文法的な規制を部分的に無視して、命題内容を表す参照点表現としての機能がより強くなると考えられる。さらにカテゴリーの制限までなくなった X を取る段階に至って、文法的な規制はさらに大きく破られ、命題内容を表す参照点としての機能のみが現れるようになる。

Because S Because of NP	文法的に正しい形式（文法の規制を受けた形式）であり、かつ NP は命題内容を表す参照点として機能する。
Because NP	of が脱落したものであるが、補部の形式としては文法的に正しい（文法の規制を受けた形式）、かつ NP は命題内容を表す参照点として機能する。
Because N	補部の形式は文法的に正しいものではなくなるので、文法の規制は緩められている。補部要素のカテゴリー制限だけが守られている段階。N は命題内容を表す参照点として機能する。
Because X	文法の規制はさらに緩められ、補部を取るカテゴリーの制限まで破られている段階。X は命題内容を表す参照点としてのみ機能する。別の言い方をすれば、参照点になるものでありさえすれば良いので、N に限らなければならない理由はなくなる。

筆者はこのように仮説として考えているが、この内容に関しては、さらに検証が必要である。ただし、以下のように例文の接続関係を考えてみると、あくまでも参照点として機能するだけの表現が because の補部に現れているということは言えると思われる。

- (12) a. Buddir ad Deen Houssun of Bussorah, for so he was called, **because born** in that city, was with grief for the death of his father, that instead of a month's time to mourn, according to custom, he kept himself shut up in tears and solitude about two months, without seeing any body, or so much as going abroad to pay his duty to his sovereign. (GloWbE Canada)
- b. like little children that have no other rule of good and evil manners but the correction they receive from their parents and masters; save that children are constant to their rule, whereas men are not so; **because grown** strong and stubborn, they appeal from custom to reason, and from reason to custom, as it serves their turn, receding from custom when their interest requires it, and setting themselves against reason as oft as reason is against them: ...  
(GloWbE United States)
- (13) a. I cannot go out today **because homework**. (= (1))
- b. A: I definitely kind of viewed him as a suspect. (= (2))  
B: Why?  
A: Well, **because motive**.

- c. Do you not think Muslim woman in Saudi Arabia should be given the same rights? Reason I am asking this is **because great**, where you are now in a non-muslim country you have pretty great freedoms ... like being able to drive a car.  
(GloWbE South Africa)
- d. I've suggested to couples that they agree not to break up a relationship **because a fight**. It's very important to have a safe space for fighting. (= (11a))
- e. The Queens father was not supposed to be king until Edward his senior brother abdicated the throne, all **because a woman**. (= (11b))
- f. They are scared of losing control, of change beyond their control, as well as are closing their minds to what they might gain. So they respond by placing up an illogical cause for their rejection of the relationship **because an obstacle**. (= (11c))
- g. That continued in Italy up through the 1950s. those who go to concerts voluntarily agree to the set of rules of etiquette but i think many many choose not to participate in live classical concerts **because the rules**. (= (11d))

まず縦続接続詞は、When (I was) a child, I used to play tennis. Though (he was) young, he was quite bald. のように、主節の主語と従属節の主語が共通し、be 動詞が従属節の主動詞となる場合、省略されることがある。(12) では、このような省略が行われているとする分析も可能である。しかし、(13) になると、「主語 + be 動詞」の省略ではなくなっている。(13a) では、(I have) homework. (13b) では (He has a) motive. が補われなければならない、(13c) では、great の内容が、直後に生じて補足されている。(13d) でも (they have) a fight, (13e) では (Edward was in love with) a woman に相当する表現が想定できる。(13f) は子供が違う文化圏の人を結婚相手として連れてきたときに、親がその関係に反対するために難癖をつけるという話であり、たとえば (they need/require) an obstacle のような表現を補って考えることができると思われる。(13g) では、(they have to follow) the rules のような表現を想定できる。このように、文脈に応じて様々な意味内容の表現を補う必要が生じるが、表現として現れている N/NP はその命題の参照点として機能しているものと考えられる。

(8) や (9) においても、命題内容を間接的に想起させる参照点として機能する表現が because of に後続していたが、ここでも同様の状況を観察することができる。先述のように of が消失したことにより、補部のカテゴリー制限は失われ、さまざまなカテゴリー要素が命題内容を間接的に想起させる表現として登場してくることになったものと思われる。

また、参照点として機能しやすい表現は際立ちを持った表現である (Langacker 1993: 6) と考えられることから、名詞や形容詞や動詞などの内容語が選ばれやすいことも当然と考え

られる。これに対して、代名詞は情報価値も低い要素であることから参照点には選択されにくい要素であると考えられる。現に、Table 1 や Table 3 において、代名詞類は使用頻度が非常に低いことが見て取れる。(しかし、参照点になり得ない、ということではない。文脈が整いさえすれば、参照点として選ばれることはあり得る、ということも大切な事実である。)

## 2. In case X

この because X の類例として発達する可能性があるかもしれない表現として、興味深いのが in case X である。in case of NP と in case S の中間体と考えられる in case X (N/Adj/V) のような形式も徐々に用いられてきているようである。このような、標準文法では認められない用法は、because X の場合と同様にブログなどで広がってきているものである。以降の調査では GloWbE と NOW というインターネット上で用いられる英語表現を集めたコーパスを主に利用していく。<sup>2)</sup> まず、in case X の用例をいくつか挙げてみる (当該調査は、2018 年 4 月 3 日から 5 月 11 日まで実施)。

### (14) in case NP/N/Gerund (53 事例)

- a. **In case your wondering**, the one nugget of general knowledge Kajen did have was that Ursus Maritimus is the scientific name for a polar bear. (NOW Great Britain)
- b. Log files are very important from Exchange Server database perspective. It helps in recovering data **in case corruption in EDB file**. (NOW Canada)
- c. A well disaster oriented community makes better plans of preparedness, rehearse those plans in peace time resulting to minimise deaths and disabilities **in case disaster** and lessen the impact of that disaster. (NOW Pakistan)
- d. He added that the telephone numbers of the various Divisional Police Officers and that of the control room have been issued out to members of the public **in case emergency**. (NOW Nigeria)
- e. That's not what this is about. This is about in cases of emergencies, **in case missing children, child abductions** ---something like that. (COCA spoken CNN Talkback)

### (15) in case ADVERB/polarity items (25 事例)

- a. By now the marginalization of women in larger left struggles should be hackneyed information, but **in case not**, here is a broad stroke to remind you that their experiences as significant actors and leaders in a host of social justice movements have been unappreciated, underappreciated, or invisible to many of the men who

- dominated movements and those who write about them. (GloWbE United States)
- b. Please check whether you have entered the correct code, account number and/or name. **In case yes**, the name may not be matching as per the record in epfo. In such case the member has to contact the concerned epfo office. (GloWbE India)
- c. Had you stayed in other place(s) in Delhi—Yes/No. **In case yes**, when did you shift to this place? (Gihar, P. 2003 *Social Structure in Urban India*. p.103)
- d. Persons claiming to be the owners of these plots have been urged to immediately contact the Urban Planning Specialist, LDA, if they possess ownership documents of any of these plots. LDA will sale these plots through open auction and no excuse will be entertained afterwards, **in case otherwise**. (NOW Pakistan)

(14) の N グループを見ている限りにおいては、単に of が脱落しただけとも見えるが、(15) のように not/yes/otherwise などが表現として登場している例をみると、もはや of 脱落という現象では説明できない事態であることが分かる。ちなみに (15d) は、in case (the owners do not contact LDA before the deadline) のような表現を想定することができる。

(16) in case VERB/Participle (21 事例)

- a. DIANE-SAWYER (Off-Camera) No. I wouldn't think so. Also, at one point, you have to call the wife and children. You were asked, the hostage asked you to call them and just say he loves them **in case happens**, the worst happens? (COCA Spoken United States)
- b. **In case forget** words and phrases about the point don't end up being anxiety and perplexed. (GloWbE Great Britain)
- c. ... you should also buy things for the dog to play and **in case need to go potty** when your not at home. (GloWbE Great Britain)
- d. Musk tweeted early Saturday that he was working with a team from his Space X rocket company to build a "tiny kid-size submarine" to transport the children. But Saturday night, he tweeted that the cave was now closed for the rescue by divers. "Will continue testing in LA **in case needed** later or somewhere else in the future," he wrote. (NOW United States)
- e. PBT On the internet is qualified and also efficient to be able to presenting shoppers with wow gold and also genuine rift gold. If you'd like to acquire rift gold with 100% basic safety, you can just come listed here. They also provide the reimburse

- policy **in case becoming forbidden**, and they're going to send out 5% totally free rift gold while using the cheapest price currently. (GloWbE United States)
- f. Or just use a white board that you wipe clean before leaving. A digital calendar makes more sense though because you can refer back to what you did on which day **in case required**. (GloWbE India)
- g. Country has very competent advocates to defend you at huge fees **in case caught for corruption**. (GloWbE India)

(16a) の場合は、動詞の屈折が見られるので、主語が欠落しているだけ、と考えることもできる。また(16b)でも主語が欠落していると考えられることも可能である。これは結婚式でスピーチしなければならない人が、台詞を忘れてしまったときのアドバイスであり、you という主語が抜けているとみることができる。しかしこの点で興味深いのは、(16c) 以下の例である。まず(16c)において、おしっこをしたいのは、あなたの飼い犬であり、削除されている主語は it/he/she など the dog を受ける代名詞であるはずで、それならば動詞は needs という屈折形になるはずである。(16d) は、in case the submarine is needed が想起できるし、(16e) は、in case the monetary product becomes forbidden に相当する表現がふさわしいと考えられる。(16f) も in case the relevant information is required に相当する表現が必要と考えられる。((16e) は、in case of の of が脱落し、さらに becoming の意味上の主語も削除されていると考えることもできるかもしれないが、意味上の主語は本文にも表れていない。)(16g) では、in case (you are) caught for corruption が補われると考えられ、ここでも本文の主語と違う要素が主語に想定される。いずれの例でも言語化されているのは命題内容の一部であり、単に of が脱落したということだけでは説明できない表現が in case の補部に現れている。

(17) in case ADJECTIVE (14 事例)

- a. The internet lender will investigate the details **in case happy**, he will transport the inquired amount of the loan into your account inside of a day. This on the web setting of software may be the fast and practical methods to utilize loans inside a problem-free style. (GloWbE United States)
- b. The South Korean military is reportedly bolstering its missiles to simultaneously take out all North Korean military installations **in case necessary**. (NOW Great Britain)
- c. Earthquake is unpredictable. Up to date, no human knowledge and invention is able



- to predict when it will happen. Scientists believed that animals are able to ... but no solid proof as far as my knowledge concerns. **In case true**, the communication between human and animals is another hard puzzle. (GloWbE Philippines)
- d. This was happening with our son and we did an allergy test that showed his sensitivity to dust mites had increased by 50% within the last 6 months. A dust mite protector for his mattress has sorted out the problem - just thought I'd mention **in case helpful** for you. (GloWbE Hong Kong)
- e. Arms are to be kept against the barrier whilst one gradually slides them upwards on top of the head, **in case doable**; if not, to a height that one is comfortable with. (GloWbE India)

ここでも、(17a) は *in case (he is) happy* のように主節主語と *be* 動詞が省略されているだけとみることも可能であるが、(17b) 以下の用例については、単に「主節主語 + *be* 動詞」が省略されているだけとは考えにくいものである。(17b) では、*in case it (taking out the installations) is necessary*, (17c) では、*in case it (that animals are able to predict when an earthquake will happen) is true* が省略されていると思われるが、いずれも対応する主文の主語とは違うものが意味上の主語として省略されていると考えられる。(17d) は *in case (the relevant information is) helpful to you*, (17e) では *in case (the movement is) doable* などの表現が省かれていると考えられる。ここでも省略されている部分は、主節の主語と *be* 動詞という組み合わせにはなっていない。

これらの用例の中でも、*in case* の補部に登場しているものとして良く用いられているのは、NP タイプの例文として挙げられている、(14a) の *your wondering* である。これは *you're wondering* という文表現との音声的類似が認められることもあり、最も多く (36 例) 利用されている。また、*in case not*, *in case yes*, *in case happens* 等はいずれも複数事例がブログなどの表現として登場している。一方、*in case your wondering/not/yes* は COCA (Corpus of Contemporary American English) には登場していない (2018 年 7 月 10 日現在)。*in case happy* のような形容詞類も、他にも *applicable*, *satisfactory*, *useful* 等の用例が GloWbE に認められる。

この形式に用いられる表現がカテゴリー的にも多様であることは、*because of* に生じた変化と類似していると思われる。名詞以外に、形容詞、動詞、*polarity* 表現 (*yes/no*) などを補部として取るのは、次節で確認するように他の因果関係の副詞句には認めにくいことである。この場合も、*in case of NP* には、対応する表現として *in case S* があることは重要であると考えられる。*In case* が文をとることができ、本来その文要素が来るべき位置に文の代



わりに概念的に文に相当する表現（命題内容にとっての参照点表現）が新しく登場するようになってきているのだと考えられる。Because X の場合と同様に、新しい構造を作り出すための入力となる二つの構造（in case of NP と in case S）が存在していることが、この新しい構造を認可しているのではないだろうか。名詞だけではなく、形容詞や動詞なども登場している点が興味深い。命題内容の参照点として機能できれば良いので、カテゴリーに関する制限は緩められていくのだと思われる。このようにカテゴリーの制限なく、文以外の要素が補部として登場している因果関係の前置詞的副詞句は、筆者が知る限り今のところ他にはないようである。実際、この2つ以外の因果関係を表す副詞句とはかなり違った分布になっている点を、次の3節で確認していく。<sup>3) 4) 5)</sup>

### 3. 他の因果関係表現類の場合

#### 3.1 使用頻度の確認

because of だけではなく、in case of も新しい形式での使用が認められるようになってきていること（of の脱落が生じて、補部のカテゴリー制限がなくなり、名詞以外のカテゴリーの補部をとるようになっていくこと）が確認できたが、因果関係を表す副詞句はほかにもたくさんある。それらのほかの副詞句において同様の発展がみられるかどうかを確認していきたい。まず、それぞれの副詞句表現がどの程度の使用頻度があるのかを BNC、COCA、GloWbE、NOW（2018年8月6日現在）で検索した結果が以下の表である。（BNC では、because\_of の形式と because of の形式でヒットする場合があります、それぞれ X\_Y 形式と X Y 形式と表記してその合計を記載している。）

形式	BNC X_Y/X Y	COCA	GloWbE	NOW
<i>Because of</i>	17559	99962	378777	1140785
As a result of	5152	13425	76380	280137
In spite of	2709	7755	30270	70653
By virtue of	965	2120	10966	22372
Owing to	810	1495	11976	64619
<i>In case of</i>	335	1478	17287	58293
On account of	496	1189	12207	39001
As a consequence of	357	1067	4404	9191
On the strength of	222	664	2415	10155
By reason of	340	471	4534	4538
In defiance of	128	436	1357	5884

On grounds of	306	233	1817	6332
By dint of	67	173	828	1923

Table 4 因果関係の副詞表現の使用頻度<sup>6)</sup>

もし使用頻度が多いものから新たな形式を利用する変化が認められていくのであれば、because of の次に変化を生じるべきは as a result of, in spite of などであるはずだが、結論から言えば、これらの表現には because of, in case of に認められるような変化はまだ生じていない。（もちろん、これらの表現についても類推に基づいて同じような変化が今後生じていく可能性はある。）これら2つの表現と in case of により近い使用頻度の by virtue of, owing to, on account of までを含めて、GloWbE および NOW（2018年3月2日から9月13日にかけて）を調査してみたところ、前置詞 of や to の脱落はすべての副詞句表現に関して認められるが、それらは多くの場合、単に前置詞が脱落しているにすぎず、直後には名詞句が登場している。名詞以外のカテゴリーの要素が前置詞脱落の後に続いて生じているという事例はほとんど見当たらない。（たとえば、in spite of に関して、in spite [n\*] (noun), in spite [j\*] (adjective), in spite [v\*] (verb), in spite [r\*] (adverb), in spite +a/an/the の文字列を GloWbE, NOW で検索し、用例を確認した。この作業を5つの副詞句すべてに対して行った。<sup>7)</sup>

調査対象としたのがブログなどの表現であるため、文字の打ち間違いがあったり、周りの文章にも多くの文法的な間違いが認められるような少数の散発的な例外は確かに存在している。しかし、これらは because of, in case of に認められるような、カテゴリーを超えた補部要素が体系的に許容されてきている場合とは事情が異なると考えられる。周りの文章に不自然ところがなく、当該箇所だけに逸脱した構造が認められる、といった事例はほとんど見当たらない。たとえば as a result yes, in spite no, owing happy, on account do the best といった表現形式は管見の限り存在していない。

この変化が because of に最初に生じて、かなりの広がりを持ってきていること、as a result of, in spite of などを飛ばして in case of にも認められるようになってきているということは、実に興味深い。そこには、新しい形式を生じるためのモデルとなる入力構造が潜在的に備わっているかどうか、という違いがあるのではないかと思われる。as a result S, in spite S のような新しい構造を生み出すための入力表現が存在しないことが、これらの表現において新形式を作り出すことができていない要因と考えられるのではないだろうか。

### 3.2 in spite of について

頻度の高い順で考えると as a result of が最初になるが、後述のようにこの表現については解釈の可能性が複数存在するので、まずこれ以外の副詞句表現から確認していく。最初に

挙げるのは、in spite of が in spite という形式になって表れている事例である。

- (18) a. Similarly, Nafisa Abu, a make-up artist said she met her spouse on social media in 2013, **in spite warnings** from family, friends and recounted stories about victims of social media romance. (NOW Nigeria)
- b. **In spite reports** claiming he's a habitual dopehead with only less than a year to live, Macaulay Culkin insisted he is not a heroin addict. (GloWbE Philippines)
- c. **In spite Mr. Pettis prediction**, China will be the winner one way or another and the winner takes it all! (GloWbE United States)
- d. It reflects a strong labor market **in spite a slowdown in economic expansion**.  
(NOW New Zealand)
- (19) a. Meanwhile, Iranian President, Hassan Rowhani, welcomed European support for his country's nuclear deal with international powers, **in spite President Donald Trump casting doubt on the U.S. commitment to the agreement**. (NOW Nigeria)
- b. This shows that **in spite facing challenges in the input side and being ranked 64 overall**, India is well poised to adapt innovation in a big way, ... (NOW India)
- c. He also criticised the KP government for its double standard and added that those who have been making claims of attracting foreign investment in the province could not bring a single foreign investment in the province **in spite spending millions on arranging seminars to attract investors**. (NOW Pakistan)

(18) は名詞句を補部にとっているもの、(19) は動名詞を補部にとっているものであるが、これらは単に of が脱落しているものと考えられる。後続の補部名詞が複数形であったり、決定詞（冠詞など）が付随していたりするものであるため、NP レベルの表現であって N ではないと考えることができる（複数形名詞に関しては、決定詞が不要なので、N レベルの表現であるとも考えることは可能であるが、統一的に見ようとすれば、NP レベルの表現であると考えることが可能である）。

of や to などの前置詞が落ちる表現形式は、in spite of に限らず一般にナイジェリア、インド、パキスタンなどに多く観察されるが、例えば 2018 年 4 月 25 日現在の NOW コーパスで in spite + a/an/the の語配列を見ると、238 例のうちナイジェリア 141 例、インド 22 例、フィリピン 15 例、ガーナ 10 例、パキスタン 8 例、ケニア 7 例、カナダ 6 例、アメリカ 5 例、ジャマイカ 4 例、南アフリカ、スリランカ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランド

3 例、シンガポール、マレーシア 2 例、アイルランド 1 例であった。(重複する例については除外し、また but のような逆接の接続表現として使っていると思われる 1 例を除いている。)

このように of が脱落した形で、名詞句や動名詞句を補部にとる形式はブログなどの世界で広がりつつあると考えられるが、他の品詞カテゴリーにその用法が広がりを見せているとは現時点では考えにくい。<sup>8) 9)</sup>

### 3.3 by virtue of について

この副詞句についても、of が脱落する事例が散見される。

- (20) a. Apparently **By virtue the written records that the Romans left behind**, it appears that there was a booming business in tattoo removal, which conversely, attests to the fact that Roman citizens did indeed get tattoos -- no matter how 'barbarian' the practice was considered. (GloWbE Great Britain)
- b. The USA climb one place to 15th despite the defeat, albeit only **by virtue the fact that Georgia suffered a last gasp 25-22 loss to Japan in the first meeting between the two sides on Georgian soil**. (GloWbE New Zealand)
- c. They cannot be taken as a single phenomenon -- the very public ideological battles between contemporary al-Qaeda and IS being a telling point. Where violent strategies differ, they do so less **by virtue ideological reasoning and more in reflection of a group's political pragmatism and real capabilities (or lack thereof)**. (NOW Australia)
- d. They will try every trick in the book, because it is their life-blood. Stick to your guns. ENSURE THAT EVERY LETTER YOU SEND CLEARLY STATES "Without Prejudice", which means that you reserve all Rights in law, and yield to no contract unless it is lawful **by virtue meeting the four conditions above**. (GloWbE GreatBritain)
- e. A team of scientists from the University of California Riverside has learned that these ants, like humans, are capable of working together to improve their response to flooding emergencies. And they do so **by virtue executing some fairly specific and sophisticated tasks**, and by using their recall abilities. (NOW Australia)
- f. The Penguins hold first place **by virtue having played just 24 games**; one fewer than the Phantoms or Hershey. (NOW Canada)

(20a) は、ローマ人達が残した記録によって、当時の風俗が明らかになってきている、という話であり、(20b) は、ラグビーのワールドランキングに関する話である。(20c) は、アルカイダと IS のイデオロギー闘争の話であるが、実際上はイデオロギーではなく、実利主義的な考え方に支配されていることを述べている。(20d), (20e), (20f) は動名詞が補部に登場しているパターンになる。(20d) は銀行との取引における注意点を喚起しており、(20e) は、蟻たちが洪水からどのようにして自分たちの身を守るのかを述べ、(20f) はアイスホッケーリーグの話である。

データベース内では、このような of が脱落していると思われる用例が、アメリカ、インド3例、イギリス、オーストラリアで2例、ニュージーランド、ナイジェリア、パキスタン、ケニア、南アフリカ、カナダ、スリランカ、バングラデシュでそれぞれ1例が認められる。

一方で by virtue という表現は、of が脱落していると解釈しなければならないわけでは必ずしもないことが問題になる。by virtue (美德によって) という字句通りの意味で用いられることもあるので、これと区別しなければならなくなることも of 脱落が発達しにくい一つの原因かもしれない。

- (21) a. Some rise **by sin**, and some **by virtue** fall ... (GloWbE Great Britain)  
 b. The problem with this view is that: those who purport to lead others **by virtue** suffer human failings. Moreover the moment 'virtue' is accepted as the basis for unquestioned power, every thug and power-seeker will put on a virtuous' face' - whilst remaining a thug or power-seeker; (GloWbE United States)

(21) では、by virtue は字句通りの解釈が求められていると考えられる。更に他にも by virtue は、別の用法を獲得しているようである。単に of が脱落しただけではなく、更に前置詞の補部までもが同時に削除されていると思われる事例が多く認められるのである。つまり、'by virtue' が 'by virtue of this/that' の解釈に相当する場合である。

- (22) a. Because the current crop of politicians are so poor and uninspiring on both sides, the younger generations disengage and **by virtue** become either ignorant or apathetic, or both.. (GloWbE Australia)  
 b. So how is the malware infecting the devices? I understand that they are networked on the internet, but being networked **by virtue** alone does not result in malware infections. (NOW Australia)  
 c. Lone gunmen shoot for no real reason, in the Middle East Israel and Palestine

throw rocks and missiles at each other with no end in sight, leaders still wage war on their own people simply because they can, countries go to war with each other just to save face. There is no rhyme or reason, no honour, no greater plan; its simply human nature and is **by virtue** unfathomable. (GloWbE Great Britain)

このタイプの表現については、更に調査していく必要があると思われる。この場合、by virtue の後ろに補部として N/V/A などが登場しているというのではなく、副詞句の by virtue が挿入されていると考えた方が妥当であると思われる。従って、ここで問題としたい構造とは直接関係しない事例であると思われる。

### 3.4 owing to について

前置詞が省略されるのは、of の時ばかりではない。owing to の to もブログやネットニュースのジャンルでは削除されることがあるようである。

- (23) a. However, I didn't realise the horrible truth about their flag. Those stars aren't in a random arrangement at all... they're in the shape of the islands that make up the country. It's a map! On the other hand much of Tuvalu will soon be underwater **owing global warming**, and they'll have to remove some of those stars. (GloWbE New Zealand)
- b. North America is the leading consumer for printed tape market in packaging mainly **owing high adoption of printed tape**. (NOW Australia)
- c. However, **owing stringent regulations** it is expected to witness slight decline in its market share during the forecast period. (NOW Australia)
- d. Researchers have explained a vicious circle that as per them is taking place **owing Arctic amplification**. (NOW United States)

to が脱落していると思われた用例は、データベース内ではインド 38 例、パキスタン 18 例、ナイジェリア、オーストラリア 16 例、カナダ 12 例、スリランカ 7 例、イギリス、アメリカ、フィリピン 5 例、アイルランド、マレーシア 2 例、ニュージーランド、シンガポール、香港、タンザニア、ケニア、ガーナ、バングラデシュ、南アフリカ、ジャマイカ 1 例となり、ここでもインド、パキスタン、ナイジェリアあたりに多く認められるようである。

なお、to と定冠詞 the や所有格の their、原形不定詞などを重ねて表記する事例がオーストラリアに数件存在しているが、これは書き手の意図的な略記であると判断して、to の省

略事例とは考えていない。

- (24) North America is **projected t**dominate the overall market **owing tt**he rising incidence of chronic disorders, growing demand for artificial organs **due tt**he rise in the cases of organ failure, and presence of highly sophisticated healthcare infrastructure. (NOW Australia)

### 3.5 on account of について

on account of に関しても on account までで of が脱落している事例が散見される。以下、(25) は名詞句が補部として登場している事例、(26) は動名詞が登場している事例である。

- (25) a. Tatsuha announces he's come to visit **on account a girl he's looking for ...**  
(GloWbE Singapore)
- b. It's regrettable in the last day or two, you know, I've been on the receiving end of some very strong personal attacks **on account the work I'm doing** on poker machine reform. (NOW Australia)
- c. RCS Market growth is anticipated to be hindered **on account lack of awareness** among organizations about deployment and usage of services. (NOW Canada)
- d. CA's hand is nominally stronger this time around **on account Big Bash's ability** to drag fans through the gates and consistently pull a million or more TV viewers each night in summer's threadbare commercial TV schedule. (NOW Great Britain) Big Bash はオーストラリアのプロクリケットリーグの名称。
- (26) a. Bavaria City Racing Dublin would advise customers that no refunds will be offered to customers who are refused entry or ejected from a venue **on account being (or appearing to be)** under age, declining to be searched, abusive, threatening, drunken or other antisocial behaviour (including smoking in no smoking areas), carrying offensive weapons or illegal substances, or making unauthorised audio, video or photographic recordings. (GloWbE Ireland)
- b. A prayer for God's Nation is a call to duty and I will gladly to do so without thinking twice whether God blesses me or not **on account praying** for the descendants of His friend .... (GloWbE Kenya)
- c. Gender: Male drivers usually cost far more to insure than feminine drivers. Area: Rural spots typically get extremely low rates when compared with metropolitan

spots, totally **on account involving** crash as well as website visitors figures together with the level of vehicle robberies. (GloWbE Kenya)

この副詞句の場合、on account (that) SV の形式があり、OED の account 4b でも on account of (the fact that) の略として slang と記載されている。OED では on account (of) が節を取る用例が、1936 年から挙げられている。実際、GloWbE には on account that SV の形式が数十件存在し、NOW には百数十件存在している。接続詞 that を省略して直接文を従える表現も、以下のように存在している。

- (27) a. Even then it regained 3 degrees within minutes once the door was closed. The middle and bottom shelves did show a marginal variance as the compressor cycled in and out, but at just +/-1degree, the result is the best we have tested. And then there is the mid drawer, which we set at 5 degrees' party dishes' mode (**on account the Pino Grigio tasted great at this temp**). (NOW Great Britain)
- b. He wants the court to declare the repeat poll scheduled for October 26 null and void, **on account IEBC (Independent Electoral and Boundaries Commission) did not follow the correct procedure of conducting a fresh election**. (NOW Kenya)

(27a) は、冷蔵庫の性能を評価している記事の内容であり、ピノグリージョ（ワイン）がとてもおいしくなる温度という理由で、摂氏5度を 'party dish mode' と呼んでいる、という話である。また、on account of と on account that SV が同一文内に登場する事例もある。

- (28) The President may provisionally suspend the National Director or a Deputy National Director from his or her office, pending such enquiry into his or her fitness to hold such office as the President deems fit and, subject to the provisions of this subsection, may thereupon remove him or her from office- (i) for misconduct; (ii) **on account of** continued ill health; (iii) **on account of** incapacity to carry out his or her duties of office efficiently; or (iv) **on account thereof that** he or she is no longer a fit and proper person to hold the office concerned. (GloWbE South Africa)

on account は節を取る形式はある程度認めやすいのかもしれない。OED でも account (n) の 4b (c) で on account が節を取る表現が認められている（ただし slang との注記がつけられている）。また on account how/why などの wh 節を従える事例も認められる。<sup>10)</sup>



- (29) a. There are some movies that try to be different but fail to be so because the people behind it do not have the know-how of filmmaking. And, Soan Papdi belongs in this category—films that start out as passion projects but finally end up as something resembling vanity projects **on account how** badly they are made. (NOW India)
- b. Bashir Ahmad, a resident of Adiyala Road, narrating his ordeal on part of police personnel said that, some burglars snatched my mobile in limits of Saddar-Bairuni Police Station and when I approached police, they started misbehaving with me, **on account why** I went there, what was I doing at that time in the vicinity of police limits, why was I carrying precious mobile with me. (NOW Pakistan)

on account は、節を補部に取れることから、因果関係的な結束関係が命題間に認められるべき関係性であることを示す良い事例になっているとも考えられる。このような状況から考えると、because of/in case of に生じた変化が on account of にも広がっていく可能性が今後ありうるかもしれない。on account of NP と on account S の両方の入力表現が存在するからである。ただ、on account S の使用は、because S/in case S のように広く認められるものではないことから、現在のところは、まだ新しい表現形式が登場する状況には至っていないようである。

### 3.6 as a result of について

as a result of は、because of に次いで使用頻度の高い因果関係の副詞句表現であるが、as a result という of が不在形式になった場合には、大きく 2 通りの用法が認められる。1 つは、先述のようにプログなどの表現として、of が脱落しただけの場合である。これは、調査したデータベース内では、ナイジェリア 58 例、アメリカ 30 例、イギリス 26 例、アイルランド 20 例、南アフリカ 18 例、カナダ 17 例、オーストラリア 16 例、ケニア 12 例、ガーナ 11 例、ニュージーランド 8 例、スリランカ、マレーシア 5 例、パキスタン、インド、タンザニア 4 例、香港、フィリピン 2 例、シンガポール、バングラデシュ、ジャマイカで 1 例が確認できた。

もう 1 つは、接続副詞としての用法で、こちらは何も要素が脱落していないことになる。多くの場合、and as a result の文字列で現れる形式である。この場合は、大部分の事例において、直後には文が来る。しかし、ときに名詞句や動詞句なども登場する。このとき、of が脱落しているタイプとは因果関係が異なる点に注意が必要である。以下、(30) には of が脱落したと思われる例、(31) には of 脱落ではなく、接続副詞的な用例を挙げる。

- (30) a. In the swine industry, productivity growth is a key factor behind the expansion of the hog industry (figure below). Productivity increased an incredible 188.2% since 1930 as a result a 66.2% increase in pigs per litter (to 9.97 head in 2011) and a 73.4% gain in litters per sow per year to 2.22 litters in 2011. (GloWbE United States)
- b. The stream of Mexicans to Texas began to flow more rapidly in the early twentieth century as a result The Mexican Revolution. By the end of Mexico's revolutionary years, nearly one out of every five Texans was either of Mexican birth or was the child of a Mexican-born father. (GloWbE United States)
- c. Hurley, from Cole Harbour, who was involved in coaching high school and minor sports, died as a result a collision with a pickup truck while he was cycling in July 2016. (NOW Canada)
- d. Over twenty people were injured as a result the explosion that Lively prayed for and is thanking God for, many of them firefighters who responded to the scene. (GloWbE United States) Scott Lively は排斥運動グループのリーダー
- (31) a. Airports carry out a significant amount of work to mitigate the risks of bird strikes, as a result serious incidents are fortunately very rare. (NOW Great Britain)
- b. First, it adopts a grid-based water meter system, monitors the pipeline network in real time, and rapidly locates pipeline failures to enable leakage analysis, as a result the rate of water leakage can be reduced. (NOW South Africa)
- c. He further said that plants can not absorb nitrogen found in urea to its maximum extent as a result a large component of it goes waste. (NOW India)
- d. As young artists much of the work is politically and socially charged, as a result the approach and orchestration of the exhibition seeks to surprise and unnerve the visitor. (NOW Great Britain)

(30)は決定詞を保持した名詞句である事例で、ofが単純に抜け落ちたものと考えられる。(30)タイプの of 脱落の文でも、決定詞が欠けていると思われる事例も散見されるので、この後の表現も because of, in case of の後を追って変化していく可能性がないとは言い切れないが、現段階ではまだ名詞句を中心とした事例が主であり、because of に生じた変化と同じことが起こっているとまでは言い切れないと考えられる。決定詞が欠けている事例は、以下の

ようなものである。

- (32) a. Memory space has a tendency to grow to be much less productive as you age group. The whole process of growing older results in a decrease in the number of cells (neurons) within the brain. **As a result change within the brain's structure**, it may take lengthier to understand new information. (GloWbE Sri Lanka)
- b. On the 01.01.2010 the inheritance and limitations law reform became effective. This may lead to the result that a large number of the inheritance claims expire by 31.12.2012. **As a result reform**, the particular 30 yr amount of limits based 197 para. 1 nr.2 of the German Civil Code (BGB) has stopped being relevant. (GloWbE Philippine)

(32a) では、前文で脳細胞が減るという出来事が述べられているが、その出来事が *change within the brain's structure* の内容であるため、通常であれば、*change* には定冠詞が付随するものと考えられる。(32b) でも、*reform* の内容は先行する文で述べられている。As a result の補部として生じる *reform* には定冠詞が付随してしかるべきであると考えられるが、無冠詞である。これらの事例では NP ではなく、N' または N のみで生起していると考えられる。単に *of* が脱落しただけではないレベルの表現が数少ないながらも存在し始めている、といえるのかもしれない。特に (32b) のように N が裸名詞として補部に置かれるだけの表現形式は他の 4 つの因果関係副詞類には認めにくいものであった。ただし、まだ *because of/in case of* と同列の変化に至っているとは考えにくいのではないだろうか。*of* が脱落した解釈になり、さらに形容詞や副詞などの他のカテゴリー要素が直接補部に登場しているタイプの表現は、筆者が見た限りにおいては確認できなかった。まだその段階には至っていないものと思われる。

つぎに動詞句が補部に来る場合を考えてみる。ここでも補部が *ing* 形になっているときには 2 通りの曖昧性がある。*of* が脱落している解釈（つまり *ing* 形が動名詞である解釈）と、*as a result* が接続副詞として機能していて、結果を表す分詞表現が後続している解釈（つまり *ing* 形が現在分詞である解釈）の 2 つである。(33) が動名詞、(34) が結果の分詞を伴っていると思われる例である。

- (33) a. Such a suggestion has been made before, but until now no one has computed the energy savings that would accrue **as a result using a correct model and**

**dependable data.** (GloWbE India)

- b. I long to see the tension and sheer terror **as a result getting being hunted by some unknown, unseen horror.** I want more David Cronenberg “new flesh,” foreign entities invading our body, humans slimed and cocooned and treated as egg sacs, men getting pregnant, etc. (GloWbE United States)

(33a) はエネルギー節約がどのくらい可能であるかをこれまでちゃんと計算してきていない、という話であり、正しいモデルと信頼できるデータを用いることによって（その結果として）計算ができるのに、そうできていないという話である。(33b) は、未知の、これまでに見たこともないような恐怖に追われる結果として生じる緊張と恐ろしさを味わってみたい、という話である。これらの例においては、*as a result (of)* の *of* が脱落していると思われる。これに対して、以下の例では、因果関係が逆転している。

- (34) a. In this regard, the Spanish Gaming Act (Ley 13/2011, de 27 de mayo, de regulacin del Juego) has considered the errors and mistakes that have occurred in previous foreign regulations, **as a result trying to be more precise and less intrusive than others.** (GloWbE Great Britain)

- b. African Americans, especially, but also Jews, Chinese communities, and a range of others have a history of being restricted from living where they choose, later or directly **as a result choosing to create their own communities.** (GloWbE United States)

(34a) は、これまでの規制方法の失敗を考えた結果、より厳密に、そして押しつけがましくないものを作った、ということを述べている。より厳密に、押しつけがましくない規制にしようとした結果、これまでの規制方法の失敗を考えた、ということではないはずである。*As a result* は後続部に結果がくる接続副詞的な表現と考えられる。*A as a result of B* では、B が原因、A が結果になるが、*A as a result*（接続副詞的）B では、A が原因となり、B がその結果となる。

(34b) も、結果の接続副詞として分詞構文をつないでいると考えられる。好きなところに住むことを制限された結果、自分たちだけで固まったコミュニティを作ることを選ぶことになっているので、先行文脈から導かれた結果を分詞句が表していると考えられる。このように、*A as a result B* ing は、因果関係が全く逆転する 2 通りの解釈が存在するので、注意が必要となる表現である。

ところで of 脱落の例ではなく、接続副詞的な *as a result* の例は、分詞形になっていない動詞を従えることもある。しかしそのような場合、屈折形になっていて、前文との接続関係があることが明らかなものであることが多い。

- (35) a. He failed to establish himself on the pitch **as a result found him pushed down the pecking order.** (NOW Great Britain)
- b. While the visitors started the second quarter well, going on a 7-0 run the game was halted midway through the second quarter when veteran Hayden Allen took an elbow to the head when contesting a rebound. **As a result received a nasty cut over his right eye which forced him from the court.** (NOW New Zealand)
- c. We spent more than one sleepless night, analyzing the collected data, and many were able to understand. We have done a lot of preparatory work and arrived in India, having on hands of a detailed program on Friday. **As a result managed to solve most of the problems.** (GloWbE Great Britain)

(35) は過去形の動詞が後続する事例である。(35a) はサッカー選手が十分な活躍ができず、降格される話であり、(35b) は、バスケットボールの試合の状況で、主語の Hayden Allen が動詞の前に省略されている。(35c) も、結果を表す表現が後続している。

次の (36) は、過去時制形ではなく現在時制形の動詞が後ろに続いている事例になる。

- (36) a. When looking at the depth of the memory foam mattress, it can often be a regular misconception that if you have a thicker memory foam mattress it will provide more comfort and support. This theory is incorrect because a thicker mattress is far too soft, it will cover the user making it difficult to move around **on as a result provides very little support to the user.** (GloWbE Australia)
- b. Using tobacco is another issue that makes the problem of sleep apnea more serious. It genuinely irritates the sinus passages and makes them enlarge. **As a result brings about the airways being partially obstructed,** producing inhaling on car aviator while you are asleep harder. (GloWbE Hong Kong)
- c. When it comes to establishing the real truth of the matter, they shy away from it and think first of their pockets. ‘better not say this, lest i lose my post as the grand mufti. **As a result lose my income.**’ Is what plays in their minds, hearts and souls. (GloWbE Great Britain)

(36a) も as a result は接続表現であり、it という主語が脱落していると考えられる。注意が必要なことは、この場合 as a result of の of が脱落しているのではない、ということである。comfort and support が与えられるかどうかを問題にしている、理由表現のあとに、だから support を得ることはできないのだ、という結論を as a result 以下に示している。of が脱落しているのであれば、as a result 以下に原因となる表現が登場するはずである。ここにあるのは副詞的な as a result であり、of の脱落ではないと考えられる。(36b), (36c) も同様である。(36b) はたばこによって、無呼吸症が悪化する話で、気道が部分的に塞がってしまうという作用が引き起こされているし、(36c) では職を失ってしまったら、その結果として収入がなくなる、という因果関係であるので、as a result 以下は、原因の出来事ではなく、結果の出来事を表しているはずである。

このことと関係して、in case の場合にも (16) のように屈折形の動詞が登場していたが、in case of NP/in case S の場合は、どちらも同じく条件を表す表現であるため、of が脱落することによる新しい表現 (in case V) が登場してきた、という可能性が考えられる（もちろん、そのように考える必要もなく、文の主語が脱落しているだけでもいえるが、in case が名詞だけでなく、形容詞、副詞などを従えることが可能となってきたことと考え合わせると、動詞についても同様の表現が生じ始めていると考えることもできる）。それに対して、(35), (36) の場合 as a result V は、as a result of とは何の関係もない表現である。この場合、of が脱落した場合の因果関係のあり方とは全く逆の意味関係を表す接続表現であることが、そのことを示している。

このように as a result of は、of が脱落した解釈と、as a result が接続副詞的に働いた場合の解釈の2通りがあるため、of が脱落した解釈はなかなか発展していかないのかもしれない。どちらの意味解釈に取るべきなのか、文脈からしか判断できなくなるため、異なる解釈の両方を認めることはやりにくく、解釈をできるだけ一本化することが望ましいと考えられるからである。その場合、改変を加えた結果として得られる「of 脱落」の解釈よりも、文字通り as a result そのままの形式から得られる接続副詞的な解釈が優先されるとしても不思議ではない。

使用頻度からすれば、because of に次ぐ地位にある as a result of であるが、このような状況から、なかなか新しい用法が発展していくところには至らないのかもしれない。（一方で、as a result N (32) のような言い方も登場していることは興味深いことではあるのだが。）<sup>11) 12)</sup>

### 3.7 本節のまとめ

以上のように、in spite ～/by virtue ～/owing ～/on account ～/as a result ～ に関して、

それぞれの表現がブログやネットニュースなどでどのように用いられているのかを確認してみた。結論としては、because X や in case X に見られるような変化は、まだこれらの表現には認めにくい段階にあると思われる。<sup>13) 14) 15)</sup> しかし、on account ~ / as a result ~ には、これらの新規表現に認められるような特徴が一部認められることから、今後同様の変化が定着していくという可能性もないとは言い切れない。

#### 4 まとめ

使用頻度の高さだけが because X や in case X という新しい形式をブログの世界で生み出す契機になっているとは考えにくい。もし頻度が問題なら、because X から in case X ではなく as a result X, in spite X などに先にこの用法が広まって良いはずである。使用によって言語変化が促進されることは間違いないと思われる (Bybee 2010, Hopper & Traugott 2003) が、しかしそれだけではなく、この変化には新しい形式を生み出すモデルとなる入力形式が存在することが重要な契機になっていると考えられる。この点からみれば、今後 on account X のような形式も登場してくることはあり得るのではないかと考えられる。ただ、どのような形式が使用され、定着していくのかはなかなか予測できないものであるため、これ以上述べることはできない。

ここに生じている変化は文法化現象とも考えにくい。そもそも of の意味自体が最初から希薄であり、意味的貢献はほぼないと思われるので、意味の reduction が起こっているとは考えにくい。文法化に見られる変化とは質が異なっていると考えられる。おそらく突然変異として表れてきて定着していつている表現なのだろうと思われるが、それが、in case にも浸透してきているのではないだろうか。

このような新しい表現は誰かがいたずら心で使い始めたのかもしれない。しかし、仮にいたずらで始めたとしても、それが可能となる土壌が最初にまずあるはずである。そのような土壌がないところにはこのような用法は発生しない。また、定着していくこともないであろうと思われる。because X や in case X のような形式が生じてくるのも、ゆえないこととは言えないのではないだろうか。<sup>16) 17)</sup>

※本論文は、科学研究費基盤研究(C)18K00646 の助成を受けた研究の一部である。なお、本論文は岡田 (出版予定) を基本として、資料を大幅に追加し、内容に関しても加筆・修正したものである。なお本論の執筆に当たり、筑波大学の金谷優先生、近畿大学の吉田幸治先生に貴重なコメントを戴いた。ここに記して感謝したい。



## 注

- 1) because X は一般にはごく最近の表現であると考えられているが、OED や COHA を調べてみると、実はその歴史は意外に古く 17 世紀（OED）には既にその発露が認められる。また COHA にも実例が認められる。

1655 And now was not Waltham highly honoured...when amongst those fourteen [Commissioners], two were her Gremials, the forenamed Nicholas living in Waltham, and this John, having his name thence, because birth therein.

1665 I...think my Tuesday letter was miscarried, because [there was] no Answer to it.

1673 From the manufacture—he will criticise because not [from the] orifactory-of soape-bubbles.  
(A. Marvell の散文)

1678 James Clerk was pursued, because a Sword being sent by Cuthbertson to Moubray a Sword-slipper [etc.].

because birth therein については、「生まれ」を表す理由表現として、because of birth という無冠詞の形式で用いられることから、birth therein で名詞句を形成しているものと考えられる。Because of NP/because S という入力構造自体は古くから存在しているものであり、世間の耳目を集める大きな変化としてはごく最近認知されてきたものではあっても、because X は実はかなり古くから存在していたものなのかもしれない。これに対して次節で扱う in case X は注 4) に書いたように、COHA にもほとんど登場してこない。また OED にも登場していない。かなり後発の表現であると思われる。なお、新形式の入力としての because S/because of NP はともに 14 世紀には存在するので、このような例が古くから存在しても不思議ではない。

- 2) ここでは GloWbE と NOW を調査対象のコーパスとした。この 2 つは、アメリカ、イギリス、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、アイルランド（いわゆる inner circle）をはじめとしてインド、パキスタン、フィリピン、ナイジェリア、南アフリカ、香港、シンガポール、マレーシア、ジャマイカなど（いわゆる outer circle）を含めた合計 20 の国で使われている英語をデータとして収録している。GloWbE は 2012 年 12 月時点でのネット上の英語表現を集め、60% がブログの表現であり、informal なデータをたくさん含むことが特徴である。一方 NOW は GloWbE と同じ 20 カ国に関して、2010 年からデータ収録をはじめ、アクセス直前までのデータを収録している。ウェブ上のニュース記事を集めたものであるが、最新の使用状況を反映している。英語表現の変化は様々なところで生じているし、ここで行っている調査に関しても、ナイジェリア、インド、パキスタンなどに多くの実例が認められることは事実であるが、一方でアメリカ、イギリス、カナダなどで生じていないということでもない。このような変化を調査するためには広く最近の英語、しかもネット上のインフォーマルな表現なども含んでいるものを調査対象とすべきと判断し、この 2 つの組み合わせで調査を行うこととした。（ウェブ上の英語表現を集めたコーパスとして最大の iWeb コー



パスは、アメリカ、イギリス、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、アイルランドに限ってデータを集めているので、また別の機会に調査を行うこととしたい。)

- 3) in case of は BNC に 335 回登場している。その補部要素の内訳を表にしておく。(ここでも、補部名詞が複数登場する場合は、便宜上、最初の名詞補部によって分類しておく。)

In case of	Instances	ratio
Event nominals (209 tokens)	trouble, problems, breakdown, emergency, disaster, war, need, hostilities, errors, doubt, frost, fire, falls, avalanches, crises, accident, death, complications, failure, rain, faults, influx, noise, infection, disorder, difficulty, damage, ...	62.4%
Action nominals (81 tokens)	dispute, air raids, inquiry, replay, attack, offers, enquiries, sale, participation, ventures, conversion, recriminations, incursion, rebellion, theft, calls, assault, pursuit, ...	24.2%
Gerunds (12 tokens)	capsizing, mugging, being wrong, our ship being sunk, the demand not being met, breaking down, clogging	3.6%
Others (33 tokens)	Entity (16 tokens): shares, company, engine, germs, shoelaces, broken legs, mylar sheet, pookas, samples ...	9.8%
	Attribute/measure (8 tokens): illness, interests, inability, measures	
	Question (8 tokens): what	
	VP (1 token): need the war bases	

ここでも、出来事や行為を表す名詞類が補部に多く登場している。また動名詞が認められることも、命題内容に相当する内容が補部に現れることを示していると思われる。さらに例えば、(i) のように主要部名詞に不定詞が付随することで命題内容に相当すると思われる場合も認められる。

(i) The legality of the move was widely questioned by constitutional experts, who claimed that the constitution envisaged the removal of the sovereign only in case of physical or mental inability to rule and not on moral grounds. (BNC HKT)

- 4) in case necessary, in case required, in case needed のような表現は、BNC, COCA, COHA (2018 年 8 月 17 日現在) には登場しない。Google N gram viewer では、これらの語連鎖は古くから登場しているものであるが、necessary, needed, required の後ろに何らかの主要部名詞が登場している可能性がある。少なくともこれらの表現が文末に来るデータは存在しない。(\_END\_ (文末) の記号を付した case necessary \_END\_ などの用例はすべてヒットしなかった。in case necessary \_END\_ は検索記号列として大きくて受け付けないために、最初の in を削除して検索したが、結果に影響はない。) OED で in case を含む用例を検索しても、in case の直後に名詞、動詞、形容詞、副詞などの語彙的範疇が来るものではなく、that S, to do, for ~などの限定が来るか、just in case の

ように補部をとらずに終わるものがほとんどである。

筆者が確認した範囲内では、in case not が BNC に 2 回登場しており、in case が of をとらずに NP を後続させているものは、in case a crash (COCA, COHA 1994 年の用例), just in case Santa Claus (COCA 1999 年の用例), in case mutiny (COHA 1879 年の用例。口語表現であり、しかも省略が他にも見られる話者の発言) という 3 例が確認できた。(この 3 例は 4 名のネイティブスピーカーがすべて、意味は分かるが、英語としては良くないと判断した。) 動詞が直後に登場しているものは、in case refused to be paid upon the lawful demand of the ensuing Governour という表現、およびこれと類似の表現が同じテキスト内にもう一度だけ COHA に登場する (1875 年の用例)。ただし、この表現自体は 1633 年の Plymouth の記事からの借用であり、更に時代を遡ることになる。また、形容詞が登場するものは Early on in case sensitive, ... というフレーズが 1 例だけ COHA, COCA に登場するが、これは Kate Greenstreet による詩集のタイトル (Case Sensitive) についての話であり、関連するデータではない。このように in case X タイプの表現は、皆無ではないものの、これらのコーパスにはほとんど登場してこないといえる。

- 5) in case は condition を表す表現であり、因果関係の表現と同類と考えて良いのか、という点については、例えば Couper-Kuhlen & Kortmann (2000:1-2) では、cause, condition, concession の 3 つは特に緊密なつながりのある結束関係と捉えられている。(They) “hold typically between clauses or sequences of clauses in discourse.” “... cause, condition and concession have long been known to have a special relationship with one another as adverbial relations of circumstance.” “... a conditional relation being seen e.g. as a hypothetical variant of a causal relation, a concessive relation as an inoperant cause.”
- 6) これらの副詞句は、Oxford Dictionaries on-line の English Thesaurus で because of, in spite of の synonym としてあげられているものを取り上げた。理由、譲歩の解釈の副詞句を調査しているが、thanks to, regardless of, in the face of, in the wake of, due to, for all は Thesaurus には挙げられているが、本論では取り扱っていない。thanks to は、副詞句以外にも様々な文要素として登場する (give my thanks to ~ など) ものであり、また thanks NP の形をとった場合に、to が脱落しているのか、そうではなく NP は呼びかけ表現であるのか、といった識別が非常に難しくなるケースが多いことから、調査が困難と判断した。regardless of, in the face of, in the wake of, due to, for all は、理由や譲歩以外の解釈で用いられることもあり、それを識別していくことは困難であると考え、調査対象から外した。また、despite, notwithstanding など、1 語で構成された表現は、of/to などが脱落する、という現象をそもそも生じないため調査対象から外している。つまり、複数語句で構成されていて、理由または譲歩の解釈に限られる副詞句表現のみを取り上げて、比較検討することとした。なおこの調査は 2018 年 3 月 2 日から始め、最終アクセス日は 2018 年 9 月 13 日であった。
- 7) as a result [n\*] と as a result + the はヒット件数が多いので、一部のみの調査を行っているが、い

ずれも名詞カテゴリーが補部にくるものであり、名詞以外のカテゴリーへの補部要素の拡張を検証する上では影響がないと考えられる。前者に関しては *hapax legomena* (1度きりしか使われていない語の連鎖) は確認していない。後者に関しては 1000 件までの用例についてのみ確認を行っている。

- 8) in spite [v\*] (verb) で、動名詞が登場する事例はたくさんあるが、これ以外で of が脱落しただけとは考えにくいのは GloWbE, NOW 全体を通して、以下の 2 例のみであった。(2018 年 3 月 31 日現在)

(i) When other Islands suggest free credit report state of michigan the reflections of to move down under. He felt the reduction the sub remained straight too dry in spite settled. (GloWbE United States)

(ii) This Pastor adeboye son is bla bla n in spite keep a low profile. Is that all? Nigerians and praise singing. (NOW Nigeria)

これらはブログや会話における表現で、かなり省略の程度が進んでいると考えられるし、周囲の文章にも文法的に不自然なところが多く認められるため、例外的事例であると考えたい。周りの文表現に非文法的なところがほとんど認められず、当該箇所にもみ変化が認められるという事例は、筆者が見た限りにおいては見当たらなかった。

- 9) in spite + NP の形式は、BNC にも以下のような例が少なくとも認められる。

(i) Robin Collomb, author of the guide, warned that in spite its comparatively low altitude of 4,062 metres, the routes of the Ober Gabelhorn were “fairly long and serious undertakings.” (BNC ECG : 1991 年の用例)

これ以外に BNC に in spite + NP/AP/ADVP/VP の用例は筆者が確認した限りは存在しないようであった。

- 10) how 節については、in spite に後続する事例も存在している。

(i) If you answered no, as you appeared to before but now? -- then one has to wonder why you focused on clothing in the first place. Especially after others, including me, were vainly trying to tell you that unwanted attention happens in spite how a woman dresses. (GloWbE United States)

(ii) Alacart is a kitchen that caters for every class of people in spite how much you have in your account, with their unique services. (NOW Nigeria)

(iii) If you don't believe in Jesus that's your loss because in spite how you feel EVERY KNEE WILL BOW AND EVERY TONGE CONFESS THAT JESUS CHRIST IS LORD make no mistake I'd rather risk beleiving there is a true and living God than to not believe and be banished to hell. (NOW United States)

- 11) As a result/in spite/on account/owing/by virtue に lack of ～, environmental pollution, global economic downturn, bad leadership などの抽象名詞が後続する場合、冠詞が見つからない例がみられる。

しかし、as a result of/in spite of/on account of/owing to/by virtue of に後続する抽象名詞を見ても、冠詞が付くことも付かないこともあるため、これらの用例において前置詞に加えて冠詞までもが脱落しているとは必ずしも考えなくても良いと思われる。可算名詞の単数形が後続していて無冠詞になっている用例は、ほとんど認められない。何らかの決定詞が付随しているものが非常に多いのが現状である。

- 12) as a consequence of に関しても、同様の調査を行ってみたが、as a result of と同じく、of がいない場合は接続副詞的に働くことになり、as a consequence は、ほとんどの場合接続副詞として機能している（因果関係が of がある場合とない場合とは異なってしまうが、ここでは of が脱落したという読みは非常に取りにくい）。前置詞脱落の事例と思われるものはほとんど見当たらないが、以下のような事例が存在するので、ここでも前置詞の脱落現象はかろうじて認められると言える。

(i) The death of a university worker as a consequence student protests received passing coverage compared with images of topless women protestors or tear-gassed students. (NOW South Africa)

- 13) as a result/in spite of/on account of/owing to/by virtue + yes/yeah/no の連鎖も GloWbE および NOW で確認してみたが（2018 年 5 月 8 日現在）、事例は見当たらなかった。because/in case にはこのような事例が挙げられていることとも対比的であると思われる。as a result + no は、以下のように NOW に 2 例だけ存在しているが、as a result of ～ の意味で用いられているものではなく、as a result が接続副詞的に用いられている事例であった。

(i) How did you come up with your business idea? Did you write a business plan, and was it an effective tool for you? The business idea started as a hobby, not a business idea at all. As a result no, there was definitely no business plan. (NOW Nigeria)

(ii) What's new in Phonesherriff? PhoneSheriff has revised the computer software and as a result no for a longer time gives the stealth version. (NOW Australia)

一方で because + yes/yeah/no の例としては以下のようなものがある。

(iii) It in fact only turns your dreams because yes; because you can. (GloWbE Hong Kong)

(iv) "Oh," Harry says as his lips curve in a sweet smile over Nick's mouth. "So I guess you're okay that it's you then?" he says, and Nick grins because yeah. Very okay.

(GloWbE United States)

(v) Holy cow am I glad I'm not the only one who feels like that sometimes ... because yeah.

(GloWbE Canada)

(vi) At this point Girl Talk quotes the Bible's book of Matthew, which says, "Everyone who looks at a woman with lust for her has already committed adultery with her in his heart." This is the last sentence I read before my face turned red and steam shot out my ears, because no.

Putting aside how fucking ridiculously horrific and wrong it is to blame the nation's crusty socks on girls wearing modest V-necks, no, lust is not the same thing as adultery. (GloWbE Canada)

- 14) in spite thereof, by virtue thereof, on account thereof, as a result thereof などの形式はいずれも存在するが、これらは、in spite of that, by virtue of that, on account of that, as a result of that などに相当する形式であると考えられるので、of を取らずに副詞を直接補部に従えている形式とは考えないことにする。as a result whereof についても同様に、as a result of which に相当する表現とみて、of が存在している形式と見なし、除外しておく。ただし (28) は on account of と on account that 節の組み合わせが生じる珍しい例であるので、thereof が介入しているが、例として挙げておく。
- 15) 注 10 の as a consequence N 以外にも、Table 4 の表現に関して、前置詞をとらずに名詞類を後続させる例があるかを確認してみると、by dint of 以外の表現については、すべて前置詞 of を略した形式が存在していた。具体例についてはここでは割愛する。また、中澤 (2018: 213) の報告にもあるように、このような前置詞脱落は、因果関係の副詞句に限られない現象のように思われる。以下のように this side of の of が脱落した事例も存在する。

(i) That's all we may expect of man this side the grave.

(ii) Well, Madame, there is no coach to be got this side the High Street.

- 16) because X の出現ルートとしては、because S から要素が削除されていったと考えることも可能である。しかし、because X だけではなく in case X や他の因果関係表現の分布をみると、X に来るものはタイプ頻度的にもトークン頻度的にも N カテゴリーのものが多く、動詞を用いる場合も動名詞形が多い。文からの省略であれば、文の中心的要素である動詞が残留する比率が高くなっても良いのではないと思われる。また、S からの省略である場合、一般に従属節では、主節の主語と従属節の主語が等しい場合や、主節に含まれる不定詞や動名詞を意味上の主語として想定できる場合に省略が可能である (Huddleston & Pullum 2002: 1267) が、そのような省略の形式を無視した表現が登場している。(16e,g) や (17c) などはこのタイプの表現と考えられる。実際に when/though のような他の従属接続詞に名詞が直接後続する場合には、a child, a student, a coward, a prisoner, a heathen などの predicative noun が後続し、主語と繫辞動詞が省略されていることが分かる。この種の接続詞に出来事名詞 (emergency, trouble, disaster, lack of ~ など) が後続する事例は非常に少ない。これに対して because/in case が名詞を後続させる場合は predicative noun ばかりではなく出来事名詞類も豊富に認められる。because はより幅広く、様々な種類の名詞と共起しており、because/in case NP/AP がただ単に主語と繫辞動詞を省略することによって生じているとは考えにくいことを示している。when/though が NP/AP を直接後続させる形式は COHA でも 19 世紀前半から認められる (OED ではさらに時代を遡って用例を確認することができる)。一方で、in case がこれらを直接後続させる形式は 19 世紀にはごく少数の事例しか認められない。新規の表現であることがこの点からも認められる。(because の場合は、注 1 に述べたように実は 17 世紀に

は既に because X 型の表現が登場している。Bergs (2018:45) は、COHA において because N よりも because A の出現記録が早いとして、後者を最初の because X の形式としているが、OED のデータやさらに COHA を広範囲に検証するとこの指摘は正しくないことが判明する。この点については、稿を改めて考えてみたい。) 最後に、他の因果関係の表現でも前置詞の省略は広く認められる現象であるので、これとの関連を踏まえた上で分析できる方が良いのではないかと考えられる。以上のように、単に S からの省略であると考えることには不都合が多い。

- 17) as a result X, in spite X, on account X など、前置詞が削除されているだけの場合であっても、X 位置にある要素は、命題内容に対する参照点として機能するものであることから、この後、because X や in case X と同じように様々なカテゴリー要素を X 位置にとるようになっていく、ということもあり得る。ただし、現時点においては、入力構造を持つ 2 つの因果関係表現に特に明確にこのようなカテゴリーの制限が認められない表現パターンが認められている。このことには意味があると筆者は考えている。

#### 参考文献

- Bergs, Alexander (2018) "Because Science! Notes on a Variable Conjunction." In Seoane, Elena, Carlos Acuña-Fariña and Ignacio Palacios-Martínez (eds.) *Subordination in English*. 43-59. Berlin: Mouton de Gruyter.
- Bohmann, Axel (2016) "Language Change Because Twitter? Factors Motivating Innovative Uses of Because Across the English-Speaking Twittersphere." in Squires, Lauren (ed.) *English in Computer-Mediated Communication: Variation, Representation, and Change*. 149-178. Berlin: Walter de Gruyter.
- Bybee, Joan & Sandra Thompson (1997) "Three Frequency Effects in Syntax." *Berkeley Linguistics Society* 23: 378-388.
- Couper-Kuhlen, Elizabeth & Bernd Kortmann (eds.) (2000) *Cause-Condition-Concession-Contrast*. Berlin: Mouton de Gruyter.
- Davies, Mark (2008-) *The Corpus of Contemporary American English (COCA): 560 million words, 1990-present*. Available online at <https://www.english-corpora.org/coca/>.
- Davies, Mark. (2010-) *The Corpus of Historical American English (COHA): 400 million words, 1810-2009*. Available online at <https://www.english-corpora.org/coha/>.
- Davies, Mark (2013) *Corpus of News on the Web (NOW): 3+ billion words from 20 countries, updated every day*. Available online at <https://www.english-corpora.org/now/>.
- Davies, Mark (2013) *Corpus of Global Web-Based English: 1.9 billion words from speakers in 20 countries (GloWbE)*. Available online at <https://www.english-corpora.org/glowbe/>.

- Hopper, Paul & Elizabeth Traugott (2003) *Grammaticalization*. 2<sup>nd</sup> Edition. Cambridge: Cambridge University Press.
- Huddleston, Rodney & Geoffrey Pullum (2002) *The Cambridge Grammar of the English Language*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Kanetani, Masaru (2015) "On the New Usage of *Because*," *Studies in Language and Literature* [Language] 68, 63-80. Tsukuba University.
- Kanetani, Masaru (2016) "A Note on the *Because* X Construction: With Special Reference to the X-Element," *Studies in Language and Literature* [Language] 70, 67-79. Tsukuba University.
- 金谷優 (2017) 「言語使用の三層モデルから見た *because* X 構文」廣瀬幸生・島田雅晴・和田尚明・金谷優・長野明子 (編) 『三層モデルでみえてくる言語の機能としくみ』 90-111, 東京: 開拓社.
- Kanetani, Masaru (2019) *Causation and Reasoning Constructions*. Amsterdam: John Benjamins.
- Kehler, Andrew (2002) *Coherence, Reference and the Theory of Grammar*. Stanford: CSLI Publications.
- Langacker, Ronald (1993) "Reference Point Constructions." *Cognitive Linguistics* 4: 1-38.
- 中澤和夫 (2018) 「潜伏名詞句の意味論と統語論を探る」 *Conference Handbook* 36: 209-214. 日本英語学会第 36 回大会 横浜国立大学.
- Okada, Sadayuki (2013) "(Ir)regularity of Conceptual Expansions in adjunct Nominals." *Osaka university Papers in English Linguistics (OUPEL)* 16: 161-185.
- 岡田禎之 (出版予定) 「因果関係の副詞句における概念拡張と *of* の脱落について」『英語学の深まり・英語学からの広がり』 阪大英文学会叢書 10. 東京: 英宝社.

## ブログ類

- Carey, Stan (2013) "'Because' has become a preposition, because grammar" Sentence first.  
<https://stancarey.wordpress.com/2013/11/13/because-has-become-a-preposition-because-grammar/>
- McCulloch, Gretchen (2013) "Why the new "because" isn't a preposition (but is actually cooler)" All Things Linguistic.  
<https://allthingslinguistic.com/post/72252671648/why-the-new-because-isnt-a-preposition-but-is>
- Pullum, Geoffrey (2014) "The promiscuity of prepositions" Language Log.  
<http://languagelog.ldc.upenn.edu/nll/?p=9558>
- Schnoebelen, Tyler (2014) "Innovating because Innovation," Corpus Linguistics WordPress. 2014/1/15  
<https://corplinguistics.wordpress.com/2014/01/15/innovating-because-innovation/>
- Whitman, Neal (2014) "Why is the Word of the Year "Because"? Because ..." Visual Thesaurus.  
<https://www.visualthesaurus.com/cm/dictionary/why-is-the-word-of-the-year-because-because/>

## コーパス

British National Corpus Online (BNC) 小学館コーパスオンラインネットワーク

<https://scnweb.japanknowledge.com/BNC2/>.



## Adverbial phrases designating causal relations and their conceptual expansions

Sadayuki OKADA

In English, there are a variety of causal adjunct phrases such as *because of*, *as a result of*, *on account of*, *owing to*, and *in spite of*. It was reported recently that a new structure *because X* is attested in colloquial registers such as conversations and blogs, along with *because of NP*. Nominals are not the only categories selected in the complement, and *because* now introduces adjectives, adverbs, and even verbs. This paper tries to delve into the reason for the innovative use of this causal expression and conducts a survey on other causal adjuncts to determine whether the same kind of innovation is observed with regard to these adjuncts. In the course of the survey, we will see that the new usage attested in *because X* is also observed with *in case X*. The X category is somehow extended in this case, too.

We take up a number of causal adjuncts that show different levels of token frequency. The truncation of the final preposition is attested with all the adjunct phrases in the survey, and yet the category of the complement is basically restricted to nominals and gerunds in the other phrases. We will look into the factors segregating the two groups of adjuncts, namely *because/in case X* and other causal adjuncts.

The structure of the paper is as follows: section 1 deals with the nature of the cause-effect coherence relation and the process of deriving the new structure of *because X*. Section 2 observes the same kind of category extension in *in case X*, and the common ground of this phrase with its predecessor *because X*. Section 3 picks up five causal adverbial phrases (*in spite of*, *by virtue of*, *owing to*, *on account of*, and *as a result of*) and deals with the difference between the two groups of adjuncts, one extending its complement types and the other not extending. Section 4 summarizes the whole argument.